



「個別最適な学び」に向かうための、 私たちのパラダイムシフト

浜田教育センター研究・研修スタッフ

「個別最適な学び」とは？

子供たちが生きていく社会は Society5.0 の時代です。今よりもっとテクノロジーが進歩した超スマート社会を生きていく子どもたちに対して、今一度学校教育の在り方について検討し、令和3年1月に中教審答申*が出されました。ここでは、これまでも個々の子供たちに対して行ってきた「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した概念が「個別最適な学び」だと示しています。

今までの教育とどう違うの？

それは、今までの指導が本当にその子の学び方としてフィットしていたのか、その子ならではの学び方なのか、子供目線で見直してみよう、ということを示しています。

学校の先生に求められることは？

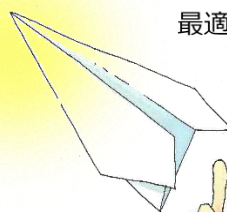
これからの教育に求められることとして「主体的・対話的で深い学び」の実現があります。これは、学習指導要領（平成29年及び平成30年告示）でも示されています。この学びの実現のためには、子供自身が自分の学びを自分自身で理解し、目標や目的に向かって自己調整していくことがのぞまれます。ゴールが分かっている、学び方が分かれば、そこに向かって粘り強く取り組むこともできます。主体的に学習に取り組む態度の形成です。そのためにも、自分は何が得意で、どうすれば一番学べるのかを知ることができるような手立てを講じる必要があります。先生は、子供たちが「自ら学ぶ」状況をつくる場面をつくることも求められているのです。

一方、協働的に学ぶことでしか得られない学びもあります。協働的な学びと個別最適な学びとを一体的に充実させることを、教育課程の中でどう位置づけるかも、見極めていかななくてはなりません。

二項対立の陥穽に陥らない、一体的に充実を図ること

一斉指導か個別学習か、デジタルかアナログか、履修主義か修得主義か、遠隔/オンラインか対面/オフラインか…授業の内容や取り組む課題によって見極めること。どちらか一方でなく、これらをどう一体的に進めていくかということも大切になります。（陥穽…落とし穴、わな。人を陥れるための計略）

島根県教育センター浜田教育センターは、西部の学校を支える先生方に寄りそう「西部地区の教育機関」です。今年度も、研修や教育相談、学校訪問を中心に、様々な業務を行っています。今回は、研究・研修スタッフがR3より研究をおこなっている「個別最適な学びと協働的な学びに関する一考察」についてお伝えします。



パスワード
r3hamase

昨年度の研究動画はこちらから！

何からはじめればいいのか？

浜田教育センターの研究では、「先生の学習観のパラダイムシフト」「子供の学びのパラダイムシフト」として、学習者目線に立った学びの再構築を提案しています。「今のままで良い」ではなく、真にその方法で子供が学んでいるのかということを見直してするために、先生方の目線あわせは必要です。そこからはじめてみませんか。

*『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日 中央教育審議会

※OJT 研修 日常の教育活動を通して、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身につける研修
Off-JT 研修 日常の職務を離れて、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身につける研修